

## 男女共同参画社会「第3回シンポジウム」

### パネル討論「産・官・学・男・女—真の共同参画社会を目指して」

司会：井上祥平（東京理科大学）

パネリスト：浅川智恵子（日本 IBM）

辻 篤子（朝日新聞）

舘 かおる（お茶の水女子大学）

井上：今回はパネリストの方が3人とも女性だったので、男性一人、司会をすることになりました。3人の方には事前に「キャリアのために、進学、就職あるいは会社対応などのそれぞれの段階で、どこの段階が一番重要と思われますか」ということを中心にお話いただきたいとお願いしました。まず自己紹介を含めて10分程度でパネリストの方にお話いただきたいと思います。

浅川：1985年に専門女性研究者としてIBMに入社いたしました。以降、私は目が見えないのですが、さまざまな視覚障害者支援関連のプロジェクトに関わりまして20年になります。最初にIBMにおける男女共同参画活動に関する取り組みの歴史についてご紹介したいと思います。女性の参政権が認められる20年前の1899年に、3人の女性正社員を採用しています。さまざまな女性の活用が進められてきて、1998年にはウーマンテクノロジー（WIT）というグループが活動を開始しました。1971年に入社した技術系の内永ゆか子さんが、2004年4月に女性初の開発製造担当の取締役専務、執行役員となっています。私自身は視覚障害者支援関連のプロジェクトとして、点字ワープロソフト、ホームページリーダーの開発など、アクセシビリティを実現するための研究を続けてきました。企業において女性の技術者が少ないといわれています。徐々に職場環境の整備が行われてきていますが、その前の段階として理系に進む女子学生の数を増やすことが必要で、そのために技術系にいる女性の先輩として活動をしていかなければならないと感じています。女性のキャリアパスにとって重要なことはフレキシブルな職場環境、自分にあったフレキシブルな職場環境で働くことが最も重要ではありますが、同時にロングタームなビジョンを持って、自分自身でモチベーションを高めていくことが重要だと思います。

辻：私は大学では理科系に入学したのですが、科学者になる道を諦めて科学史科学哲学科に進み、79年に朝日新聞に入社しました。その後大体科学関連の道を歩んできました。その間科学ジャーナリストのためのプログラム参加、科学担当特派員として、アメリカで3年過ごしました。その間女子大の取材をして、アメリカは女性のトップの半分

くらはいは女子大出身だとかで、共学のところでは女性はなかなかリーダーになれない、リーダーを育てるのが女子大の使命だということを痛感しました。やはり女性はアメリカでも大変だと思いました。男女共同参画社会推進のために必要なことのトップは「男性の意識改革」であるという気がしています。まだまだ女性が出て行くことが特別であるという意識が色濃い。なぜ女性をもっと出て行かなければならないかということを経済意識までを変えていかないと、うまく進んで行かないのではないかと思います。

館：お茶の水女子大学ジェンダー研究センターは、最初に1975年に「女性向け資料館」として設置され、その後女性文化研究センターを経て1996年に新たに設立されました。そこで「ジェンダーと科学技術」をテーマに研究を進めるプロジェクトを担当していますのが私です。お茶の水大学には女性で初めて博士号を取得した自然科学分野のさまざまな研究者がいるので、その資料を作成して研究しました。若い世代へのメッセージとして広く紹介し、モチベーションが高まったということも聞いています。次に「大学教育とジェンダー」ということで、大学における女性教員、女子学生の数について調査しました。そこで国立大学が今まで果たしてきた自然科学系の女性研究者の教育、学生の養成システムは非常に大事なものであることを改めて痛感しました。それでも、男女の違いが非常に顕著なのはやはり旧帝国大学系で、10校くらいが1割以上ですが、それ以外は1割以下というのがほとんど、女性教員が全然いないという大学もあります。また国際的にどのようにジェンダー研究が展開されているのかも調査しています。男女共同参画が科学技術政策のなかで位置づけられなければならない。ジェンダー支援化政策は民主主義の要である。年齢差も含めて男女の差にかぎらず多様な知性を生み出す人材管理が大事であり、平等について配慮しなければならないであろう。

(パネラー発言終了)

フロア(男):「男性の意識の問題」で片づけるのは問題解決にはつながらないと思う。具体的に指摘して欲しい。

フロア(女): 意識の問題よりももっと大事なのは具体的な施策であると思います。

フロア(男): 女性は男性より10年長く生きますので、女性の定年を10年長くするとよいと思う。

フロア(女): 社会全体を少しずつ変えていかないと、意識のレベルまで変えていくのは難しいと思います。